令和3年度第3回伊賀市島ヶ原財産区管理委員会会議録

開催日時 令和4年2月16日(水) 午後1時25分から午後3時25分
出席者 山菅管理委員会会長、松永副会長、橋本委員、川北委員、川委員、
上原委員
谷口支所長、森岡、田槿
欠席者 川畑委員

1. 開会 振興課長

皆さんこんにちは。

定刻よりも少し早いですが委員の皆さんお揃いですので、令和3年度第3回伊賀市島ヶ原財産区管理委員会を始めさせていただきます。

まず初めに、会長あいさつよろしくお願ひします。

(会長) 改めまして、こんにちは。皆さん、ご苦労さんでございます。忙しい中、おいでいただき、ありがとうございます。コロナというのはなかなか収まってこずに広がっている。伊賀市の中、島ヶ原でもPCRの検査をすれば3分の1くらいは症状なしの感染と違うかと思われるくらい広がっている。皆さんも高齢に近いので早めに3回目のワクチンを打って、仮に罹っても重症化しないような措置を取っていただくとともに活動についても十分に気を付けていただければと思います。

本日は来年度の予算と今年度の補正予算の議題ということで皆さん方よろしくお願ひします。

(支所長) これ以降の進行につきましては、管理委員会条例第5条第2項に基づきまして会長に進めていただきます。よろしくお願ひします。

(会長) それでは会議を進めます。

本日の出席委員は6名、川畑委員が欠席です。過半数出席により会議は成立しますのでその旨報告させていただきます。

会議録署名委員ですが、橋本委員と川北委員にお願いしたいと思います。ご了解いただけますか。

(委員) はい。

(会長) では、よろしくお願ひします。

それでは、まず同意案件ということで議案第1号から始めます。

事務局から説明をお願いします。

(支所長) 議案第1号の資料をご覧ください。

令和4年度の予算につきまして、皆様方のご承認をいただきたく説明させていただきます。

(資料に基づき説明)

(会長) はい、ありがとうございました。

皆さん、ご質問等ありましたらよろしくお願ひします。

(委員) 大きな変化は、歳出の造成事業で委託料が減った代わりに、その分が工事費に代わったことぐらいですね。

(支所長) そのとおりです。

(委員) 門扉設置工事は7万7千円でできますか。

(事務局) 門扉は簡易的なものです。今、滋賀県側で林道整備が進んでおり、新たに大沢池に入れる道ができたため、池近くの入口に簡易門扉、チェーン張りで入れないようにしておこうと考えています。

(委員) 門扉はザルだろうが、姿勢だけは示しておくということですね。

(委員) 三国越林道を通ると土砂の崩落や倒木で荒れてきている。そのあたりを予算に盛り込むことはできないのか。

(事務局) 三国越林道は広域の幹線林道になっており、本庁の農村整備課所管になっています。財産区としては、大道から南山城方向は通らないと現場に行けないので管理しています。作業員でできることはしますが、それ以上のことは農村整備課に状況報告しています。

(委員) 地区要望としてお願ひするということか。

(事務局) そうです、地区要望を合わせてあげています。

(会長) 委託料にある境界確定測量業務委託は、今までずっと300万円程度であったのが、まとめ業務を含めて110万円程度になっている。今年で最終年度を迎えるということか。

(事務局) ある程度見通しが立ってきましたが、完全に終わりにはできません。作業員でも行っていない現場があり、地図を頼りに行って杭があるかどうかを、今、確認しているところもあります。そういうのがぐるっとひと巻できるような状態になれば測量をかけたいので予算計上しています。

(会長) これは予備分ですか。当初計画していた部分の最後の額がこれだけで、さらに今説明のあった分は追加ででてくるという主旨ではないのか。

(事務局) 当初は財産区有林の地図に載っている全てを測量できるものだと思っていましたが、現場を把握していない部分があるので、まだ100%の確認ができていません。

(会長) 計画していた分は、一旦、全て終わって、予備分として計上しているのか。

(事務局) 計画しているのは、地図に載っている全部なので、まだ終わっていません。

(会長) まだ終わっていないのですか。来年度実施できそうという分が、これくらいということで、積算して計上してあるという趣旨ですか。

(事務局) まだ出てくるかもしれないというぐらいです。

(会長) まだ継続中ということですね。

(事務局) はい。

(会長) 繰出金の話しですが、まち協に話をしてまち協は断ったということですか。

(支所長) まち協としては断ってはいない。

(会長) 受けてもいいという話しですか。

(支所長) そうです。まち協としては資産を持つのは構わないということです。

(会長) 財政当局からダメだと言われているということですか。

(支所長) 市の予算計上として、大山田と同様にしてくれということです。

(会長) 市の財産であるという位置づけをしておきながら、財産区で費用を持つというのは、本来おかしな話しである。この話が前回出た時も、まち協が管理委託を受けるのであれば、その財源補填として考えようかと言っていた。市の財産のままでは、なかなか出し難い。市の財政当局が思っているように、島ヶ原には財産区の財産があるのだから何でも使ったらいいというふうになりかねない。

(支所長) 今回のことは島ヶ原だけで言っていることではなく、各地域で言っていることです。地域としてもそれだけの財政負担が増える中で、財産区が負担し、地域の負担が増えることがないことを前提に話しをしています。皆さんは各区から出ている委員さん方なので理解いただきたい。

(会長) そういう話しになったから、区長会の判断も得たうえで、まち協でいこうと議論した。落とすどころとしてまち協に持ってもらうとしたわけだから、大山田と違う方法でもいいのではないか。

(支所長) 市の意向としては、今はこういう方法でしか出せない。

(会長) 補助といっても管理委託でいいのではないか。それとも譲渡してもらうのか。

(支所長) どこも基本は譲渡です。譲渡されると電気料や修繕費が区の負担になってくる。なかなか厳しい状況になるので、それは財産区でお願いしたいということです。

(会長) 譲渡するのは問題ないのであれば、他の地域と同様にまち協に譲渡すれば良い。まち協は譲渡を受けたけど後々経費が要るからと、まち協から財産区に話しをすれば良い。

(支所長) 財産区からまち協に補助を出すことは、他の地域と差ができてしまうので、できないというのが市の財政当局の言い方です。

(会長) どっちかになる。財産区からまち協に補助できないのであればもう。

(支所長) 街灯の灯りが消えてしまうということになりかねない。

(会長) そこは頑張ってもらおうしかしょうがない。

他の市町村では、いろんな補助要綱を持っている。

大阪狭山市では、財産区地域公共事業等交付金交付要綱といって大阪狭山市の財産区が補助金を出せるような要綱があって、実際、事業をしている。事業の対象には、会館等の建設とか、その維持管理費、地域内の施設の環境整備費や文化振興事業など幅広く財産区から財源として補助している。我々の財産区についても同じような形で1歩踏み出たら良いのではないか。

(支所長) 仰るように財産区の中で一定出せる基準を決めることは可能です。ここ

までのものについては財産区で出しましょうとこの場で決めることは可能ですし、その基準に基づいて出していくというのは必要なことだと思います。

ただ、他の地域とのバランスがかけ離れた時に、うちで作ったものがそのまま認められるものではない。

(会長) 一つは、他の地域とのバランスと言うが、そもそも財産区を設けていること自体が違うわけで、違うことありきで進めているのだから何もない団体同士のバランスと同じ目線で考えるのはおかしいと思います。

もう一つ、島ヶ原の地域のために使えばいいのだけでも、そもそも市が負担すべきものを財産区が出しているというのは、結局は、島ヶ原地域以外のところへ市の財源を回しているという話しになるので、そここのところのバランスですよ。

(支所長) 街灯だけに限って言えば、ほかの地域はすべて地元地区に下ろしているということです。

(委員) 一番の出足というのは、市で持っている街路灯を各区単位で持って下さいと、それが始まり。そうすると各区は電気代が年に10万円も増えてしまう。それは大変だということで、その費用を財産区へということですよ。

(支所長) 今までの話しはそうです。

(委員) 電気代を全て住民負担でというのは伊賀市全体の話しですね。

(支所長) 島ヶ原は街灯が他所に比べて多い。

(委員) 地区と地区の間の街灯は全て市の所有にしてある。

(支所長) 他の地区では、家がなくても地域内にあればその地区が持っている。

(委員) 私的には街灯こそみんなのために一番有益的に使われていると思いますから、私は街灯に使っても全然異論はないです。

(委員) 島ヶ原がそもそも財産区を作った時の、地元のためにということなんだから、財産区のない地区と乖離してたって当たり前じゃないかって思うけど、市はそうは見ないわけですね。

(支所長) かけ離れたことはできない、ルールに沿ったことしかできない中でどれだけ島ヶ原として使っていけるのかということだと思います。

他地域とのバランスというのものもある。

(委員) バランスというのはよくわからない。

(会長) バランスというのは、断りの口実に使われているだけのように思う。

きっかけづくりにもなるので、これは予算を付けておいてもいいが、執行においてまち協への譲渡ということを前提にまち協へ補助を出すという、そこを突破口にして拮げていこうよ。

(委員) 何が違うのですか。

(委員) まち協に持たしてもいいけど、まち協はそんな財源を持ってないでしょ。

(会長) だから、まち協に補助を出す。

(委員) うちがまち協に補助を出せるのであれば、補助を出すということですよ。市に出すよりもまち協に出したいということですね。

(会長) そうです。

(支所長) まち協に出すのであればまち協のレベルまでは出しましょうというのをこの中で決めていただいたら良いし、まち協の事業であってもまち協のどの部分まで出す、区のどの部分まで出すのかというような一定のレベルは欲しいと思います。今の時点ではそれはなくて、市でもないです。そんな中で一番予算組みがしやすかったのが、一旦、市でそのまま持っているけどもその財源となるものは出していただきたいということです。

(会長) 財源を負担するという点については、まあまあしょうがないなと皆さん思っていると思うのでそれで良い。出し方の話しです。

(支所長) まち協に出そうと思ったら、補助要綱か何かないと市としては出していないので、それを作るのがひとつハードルといえばハードルです。

(会長) 区がそれぞれ受けると、区に対してその財源を補助するというのでも良いし、区の集合体がまち協ということでも良い。出せるひとつのきっかけになると思う。一番心配しているのは、市のもので市が本来負担すべきものを、何故財産区が負担しないといけないのかということで、何でもかんでも島ヶ原地域で市が事業をするものに対して、全部財産区からお金を出すのかという話しに拡がりかねない。

我々も協力するが、支所において補助の基準的なものを決めて補助要綱を作るように努力してもらいたい。

(支所長) 今回の予算上程に対しては、これで認めていただきたい。

(会長) そこは管理会では了解できないので、条件付きで額自体については了解する。

(委員) 街灯に関しては、島ヶ原だけと違って市から支出はしないので地元でしなさいと言うのが大前提になっているのだから、島ヶ原は島ヶ原で払わないといけない。市が払わないといけないものに財産区がなぜそこに負担しないといけないのかという筋論はあったとしても、現状は島ヶ原だけと違って各地域とも同じことになっていて、財産区の金を負担することはダメだとは言っていないのだから、それを支出できる形さえ整ったら今の状態でいいと思う。今まで通りやることに別に問題はないのではないか。島ヶ原だけ特別な方法で支払うというのも、後々やり方とすれば考えないといけないのかも分からない。

こと街路灯に関して今まで継続的にやっけてることで、そういう精算の方法が正論とは言わないけども、実質それでやっているんだからその方法でやっていかないと今の状況ではまずいのかなと思う。

(委員) まず街灯についてだけです。街灯についてだけ考えようよ。

(委員) 島ヶ原の全区長が集まってどうするんだと。全員一致で財産区にお願いしたいという総意なんやなこれが。それを受けて支所長が調整して、これは全部の総意なんやな。そこだけ理解してもらって。

(支所長) 公共施設、公共事業に対して何でもかんでも市に出してもらおうという考え方はしていない。それが今回、他の旧市町にはない独自の電灯のことについて、

こんな方法でお願いしたいというお願いをさせてもらっているのが今の状況です。

(会長) こだわりの部分で、補助というスタイルが問題で出せない。補助要綱はできないのは現状としては分かる。ただ、管理委託ということはできるのではないか。依然として、市の施設のままでお金払っていくというのであれば、同じように市の施設にしておいて管理だけまち協に委託する。委託料として、あるいは負担金として払いますよというのであれば出せる。

(事務局) 市の施設ではない、地元の施設です。街灯自体を各区で引き取ってくださいと言ってる。市の施設じゃないです。

(会長) 今は市の施設でしょ。

(事務局) 今は市の名義になっている。市の名義のまま残して、その委託契約を結ぶ必要はないですよ。委託契約結ぶくらいなら各区で引き取ってもらって各区の名義にしてもらったらいいだけの話し。

(会長) それが一つの方法だけど、4年度で言ってるのは市の名義として残しておいて、財源だけ財産区から頂戴と言ってるわけでしょ。名義として残すわけでしょ、4年度は。名義は名義として、まち協で支払いをしてもらえるような手段として考えようとするれば補助ではなくて、管理委託、委託料という形であれば別に出せるのではないか。

(事務局) どうしてして市の名義のものをまち協で支払ってもらうのですか。

(支所長) 電気料なのになぜ委託をする必要があるのか。料金を払うだけなのに委託して何をするのか。

(会長) 管理の委託、例えばちょっと電灯が消えた云々したときの、修繕的なものも含めてというような形であれば委託できるのではないか。

小修繕的な付け替え的な経費も含めて財産区で持つので、管理委託として委託先をまち協としてもいいのではないか。

補助というスタイルでは出せないというから、他のスタイルであれば出せるのではないか、そういう検討の余地もあるのではないか。

(委員) これはもう電気代のことだけ、あとはやり方いろいろあるだろうけど、ここの電気代、街灯費に関しては無理だろうと思います。委託費と言っても、道路管理費とかいろいろ言われても、電気代を払いなさいだから。

(支所長) 単純に電気代を払って下さいということなんです。

(委員) まち協がどうのこうの言っても、そういう余裕はないと思います。

(委員) 市としての公共性は認めてないということですか。

(支所長) そうです。今までから島ヶ原の地域内は街灯の数が多い、他の地区に比べてこの地域は多いというのがまず一つ。あと以前からすべて地域で持ってる地域があるし、そのバランスも悪い。島ヶ原だけが他の大きな旧市町よりもたくさん電気料を払っている。

一番明るいところに合わせてくれたらいいのですが、一番暗いところに合わせますから。

(会長) 市がそういうふうに低いレベルに合わせに行くから仕方がない。そのところは地域の住民としては納得できない。

どうでしょう、皆さん。実質の部分は、私も含め特にかまわないけど。

(支所長) 一旦これでお認めをいただきたいと思います。出していただくことについては認めていただく、予算に計上することも支出することもこの場で認めていただければと思います。

(委員) はい、いいです。

(委員) 今後のことを考えると、個人的には地元のために使えるものは使いたい。また違う案件が出てきた時、また同じ話をしないといけない。それをしなくても良いように何かあればよいのだが。

(支所長) それはこの場で決めていただく話し。どこのレベルまでなら出していこうというのはこの場で認めて、作ってもらったらいいと思います。

(委員) それを作って行こう。一年経ったけど、何か同じ話しばかりしてるような気がしている。

(支所長) あくまで市の予算ですので、そこはまた別の審査がありますが、財産区の管理会としてはここまで出していくというところは、やっぱりあった方が良いでしょう。

(委員) それを出すようにしよう。

(会長) お金の出し方を真剣に考えましょうか。

(委員) そういうことですね。

(会長) 当初予算については、他に特に質問等もないですか。

(委員) 地域福祉への120万円の繰出し金の話の確認ですが、清流とデイサービスという部分に分けて、島ヶ原の福祉センターの維持のためにお金が要りますという話だったと思うのですが、伊賀市の社会福祉協議会の予算がまた別にあって、その一部が島ヶ原の福祉センターだと思いますが、あくまで島ヶ原の福祉センターの運営に必要な補助をするということであって、伊賀市の社会福祉協議会の運営全体を援助しようという話しではないという理解でよろしいか。

(複数の委員) そうです。

(委員) 因みに、やぶっちゃんへの繰出金は全然入ってない。もう要らないのか。

(事務局) 予算をたてるときに、やぶっちゃんの民営化の話しが進んでいたもので計上してないです。

(委員) 民営化は議会で否決になったんでしょ。

(事務局) そうです。

(委員) 今年度はもうないのか。

(事務局) 最初、民営化の話しが出ていたので上げてなかった。去年と同じで形だけでも計上して、それで皆さんにお諮りしたかったが、それができない状態の予算書を見ていただいているということです。

(委員) これを見る限り、やぶっちゃんには絶対に出さないのか。

(支所長) 今の当初予算では盛り込めてないので出さないつもりでいます。続けて

3年間の指定管理を結ぶこととなります。ただ3年間と言いながらも、途中で公募をかけることになっていきますので、3年以内には公募で入札するという状況です。

皆さんの意見を最後に聞きたかったのですが、今お話しが出たので、やぶっちゃんに対してどうしていくのかをこの場で少しご意見をいただけたらと思います。

(委員) 今は予算書に上がってないけど、いずれ本年度中に補正があるということか。

(支所長) 地域のものだからどうにかしてやろうという意見がまとまるのであれば、次の議会なりその次の議会にそういう話しも出していかないといけないのかなと思っています。

(委員) 民間に譲渡されたのに公金をつていうことを思ったら出し難いけど、今の状況を見たら出して維持させないということなのでとりあえず前に行きましょうよ。

(会長) 地域としては、あそこは必要な施設だという認識では良いと思う。ただ経営者が誰になるか。

(委員) 金を出すのは簡単だけど、何も努力もしないで金だけもらって、ここ直ってよかったではね。

(支所長) 当然、今、仰るように、この1年が大事な時です。この前の議会でお前らみたいな法人では信用できないということなので、今はそれに対応できるような組織への改善であったり、資金の調達方法であったり、そこら辺の改善をどれだけできるかというところを問われていますので、そこをやぶっちゃんに意識をしてもらわないといけない。仰るとおりだと思います。

(会長) それでは1号議案について、社協さんに経営状況等説明いただくことを条件に同意することで、次に行っていくのですか。

第2号議案の令和3年度の補正予算について説明をお願いします。

(支所長) 令和3年度伊賀市島ヶ原財産区特別会計補正予算書をご覧いただきたいと思います。

(資料に基づき説明)

(会長) はい、ありがとうございます。

皆さん何かご質問ございますか。

(委員) 職員人件費1百78万円の減額は、作業員がお休みだったのか。

(支所長) 作業員報酬は、出勤日数に応じて支払いをしていて、天候等にも左右されますのでこれだけの減額になった。

(委員) 毎年これぐらい動くわけではなく、たまたま、この年の出勤日数がこれだけ少なかったということか。

(事務局) 一応、当初予算では全日天気ということで計算している。

(委員) マックスで要求しているのだから、出勤しない日があるとその分減ってくるという意味合いの差額ぐらいですか。差額と見ておいていいですね。

(事務局) はいそうです。

(委員) 基金の積み立てに500万円も回っている。当初は何に使う予定だったのですか。

(事務局) 歳入で繰越金が2百万円増えています。繰越金が2百万円増えて、人件費が1百78万円減って、委託料1百万円が減っているので合計4百78万円、その辺で合計5百万円になります。

(委員) ああそうか、そういうことやね。

(会長) よろしいですか、1点だけ教えて。境界確定の300万円が1百90万円で済んでいるが、当初予定していた部分で何か支障があったのか。

(事務局) 先程の説明と同じように、現場に入れてない部分がありました。

(会長) 予定していたが何か障害があってできなかったというものではないのか。

(事務局) はい。そういうのは今のところないです。

(会長) 了解。よろしいですか。

2号議案の補正予算については、同意といたしたいと思います。ご了解願いますか。

(複数委員) はい。

(会長) 第3号議案に参りたいと思います。

10万円以上の支出行為についての同意ということです。説明をお願いします。

(事務局) 3号、4号ということで2件上げさせていただいています。

この2件に関しては、会長、副会長に事前に連絡させていただいてご承認いただいた案件になります。

(資料に基づき説明)

(会長) はい、ありがとうございます。

皆さん何かご質問ございますか。

(委員) 森林組合に委託しているのか。

(事務局) はい。

(委員) こんな金額でできるのか。

(委員) えらい広いなと思って。

(事務局) 広くはなく、外周だけです。赤い線の外周だけです。

(委員) それでもこんな金額でできるんだ。

(委員) 幅1メートルぐらいの話でしょ。

(事務局) そうです。

(会長) 他に質問ありますか。

事前に報告を受けていて、そういう事情であればということで了解した物件ということで提出いただいた案件ですけども何かありますか。

(委員) はい、OKです。

(委員) はい。

(会長) わかりました。

3号、4号議案につきましては同意ということでもさせていただきたいと思います。

以上ですけれども、その他、何かございましたら。ないですか。

(委員) 事務局からはないですか。

(支所長) 事務局からはないです。

(会長) 次の開催は、予算成立後の話しで5月くらいですか。

(事務局) 10万円以上の支出行為について、年度初めにしないといけないので5月の終わりから6月の初めころ。

それまでに、10万円以上の案件があった場合は会長、副会長に連絡させてもらうということでご了解だけお願いします。

(会長) あとは、議事の中でも出てきた話ですけれども、出し方という部分について、新年度は詰めていきたいと思います。いろんな意見とか他の市町村での出し方、補助要綱的なものも調べておいていただけたらと思います。

いろいろあろうかと思いますが、現実問題として、そういう制度があるし出しているというのがあれば、資料集めをお願いします。

以上をもちまして、財産区管理会、閉会したいと思います。

本日は、長時間にわたりご苦勞さんでした。ありがとうございました。

2022年 3月 日

議事録署名

(会 長) _____

(署名委員) _____

(署名委員) _____